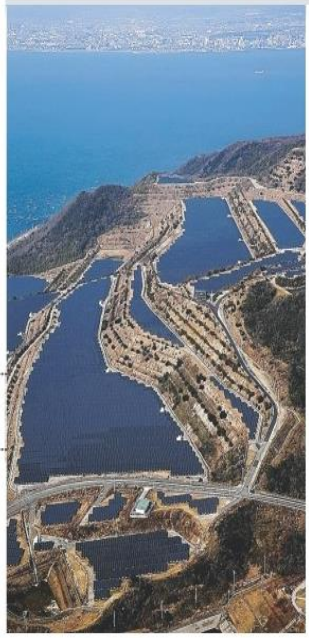
神戸新聞 2017年08月28日 月曜日 面名 朝三 １３ 3ページ

風力、バイオマス、地熱…

新エネ発電950万世帯分

16年度集計

国内の再生可能エネルギーのうち、今後も大幅な導入が見込まれる太陽光など五つの「新エネルギー」による2016年度の発電電力量を都道府県別に比較したところ、北海道が最大だったことが27日、経済産業省資源エネルギー庁の資料で分かった。



播磨灘を臨む山の斜面に設置された太陽光パネル＝淡路市内

再生可能エネルギー　永続的に利用することができると見込まれるエネルギー源で、水力や太陽光、風力、地熱、バイオマスなどがある。東京電力福島第1原発事故後に原発が相次いで停止し、新たな電源として注目されるようになった。火力発電と比べても温室効果ガスの排出量が少ない上、国内で自給できるなどの利点があり、経済産業省は2030年度の発電電力量の22～24％を再エネで賄う計画を立てている。

エネ庁は電力の家庭向け小売り自由化が始まった16年度分から、認定した電気事業者の発電量を集計し、都道府県別にまとめた。その中で、太陽光と風力、地熱、木材などのバイオマス、廃棄物による発電を「新エネルギー等」と分類。16年度の実績は全国で計約284億1800万㌔時に上った。一般家庭約950万世帯分の年平均消費電力量に相当する。

北海道最大、兵庫は太陽光４位

最大の北海道は太陽光が全国1位だったほか、バイオマスと風力も同2位で、計27億1975万㌔時を発電。バイオマスで1位だった愛媛県が計18億7487万㌔時で続き、3位は地熱が最も多い大分県で計16億5814万㌔時だった。

兵庫県の総発電量は9億1773万㌔時で全国12位。太陽光は3億5166万㌔時で北海道、茨城、福岡に次いで4番目に多かった。バイオマスは7位の4億7246万㌔時だった。

一方、水力発電も含めた再生可能エネルギーの発電実績で比較すると、豊富な水資源に恵まれている富山県が計88億4664万㌔時で全国1位となった。岐阜県も水力の割合が極めて高く同2位の計84億407万㌔時で、北海道が3位の計82億4774万㌔時で続いた。

再生可能エネルギーの動向に詳しい高村ゆかり名古屋大大学院教授は「順調に増えている」と評価。「新規参入の発電業者が大手電力の送電系統に接続しやすくしたり、発電コストを下げるインセンティブを（政府が）用意したりすることで、普及に弾みがつくはずだ」と指摘した。

新たな電源として注目される太陽光や風力などの新エネルギー。発電量が大きい自治体は、位置や地形に加え、面積の大きさやその地域の経済事情などが影響しているようだ。面積の小さな県では、水力も含め導入に苦戦しているところも目立つ。

2016年度に新エネルギーで全国最大の発電実績となった北海道。風力や太陽光、バイオマスなどいずれも多いのが目を引く。北海道環境・エネルギー室は「風力発電は海岸線が長く、適地と言われている。太陽光も道内の太平洋側は日照量が多く、発電効率も上がる」と説明する。

県土の広さや地形で格差

見逃せないのは土地面積の大きさだ。土地が広く取得しやすいのに加え、地価も比較的安いため、メガソーラーの導入が進んだという。一方で、自然エネルギーの一層の導入には本州とつながる送電線を増強し東北や関東に多く送れるようにする対策も必要で、環境・エネルギー室は「政府の政策に左右される要素が大きい」と話した。

バイオマスによる発電量が全国１位の愛媛県は、製紙パルプ関連の産業が集積していたのが寄与したとみられる。地熱発電がトップの大分県は温泉地として名高い。

一方、発電実績の下位には滋賀県や香川県、沖縄県など比較的面積が小さい自治体が並ぶ。香川県環境政策課は「風力や水力などのポテンシャルに恵まれていない。太陽光中心にならざるを得ないが、土地面積も全国最小でなかなか思うようにいかない」ともどかしさを口にした。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名　前【　　】

① 「新エネルギー」のエネルギー源５つを書きましょう。

（　　）（　　）（　　）

（　　）（　　）

② 2016年度の「新エネルギー」による発電量は、一般家庭で何世帯分の年平均消費電力量に相当するのでしょう。

約（　　）世帯

③ 兵庫県での太陽光発電は、全国で何番目になりますか？

（　　）

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～高校生／社会、公民、総合、朝NIE